

授業科目名	移民と共生	単位数	2
担当教員名	設楽 澄子	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 日本の移民受け入れ制度や政策の変遷とその問題点を理解し、説明できるようになる。</p> <p>(2) 移民の受け入れがもたらす経済・社会的影響を、実証データに基づいて理解し考察できるようになる。</p> <p>(3) 移民の統合政策について理解を深め、移民との共生社会を築く上で、国や地域社会が果たすべき役割について、自分なりの意見を持てるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本における移民受け入れの歴史を通して、日本の移民の状況を、データを基に把握し、移民受け入れ政策の課題を理解する。また、移民の受け入れによる経済・社会的影響を、実証データに基づいて理解し考察する。教科書でマクロな状況を概観し、スクーリングでは具体的な事例を通して学ぶことで、国や地域の移民受け入れ政策の課題を考察し、地域社会で移民をどのように受け入れるべきかを考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：移民とは誰か（序章）</p> <p>第2回：移民送出国から受け入れ国へー日本の移民受け入れの歴史（第1章）</p> <p>第3回：日本の移民受け入れ制度①（専門職・単純労働者）（第1章）</p>			

- 第4回：日本の移民受け入れ制度②（ケア労働従事者・難民）（第2章）
第5回：移民受け入れの経済的影響①—移民は労働環境を悪化させるのか（第2章）
第6回：移民受け入れの経済的影響②—移民受け入れの社会保障への影響（第2章）
第7回：移民受け入れの社会的影響①—移民は犯罪を増加させるか（第3章）
第8回：移民受け入れの社会的影響②—移民の受け入れと地域社会（第3章）
第9回：移民受け入れの社会的影響③—移民にとっての治安問題（第3章）
第10回：移民統合政策（多文化主義・市民統合政策）（第4章）
第11回：移民の居住者としての権利（第4章）
第12回：移民二世の社会統合（第5章）
第13回：民族構成の変化と「国民」意識（第5章）
第14回：移民問題と社会問題（終章）
第15回：定期試験

スクーリングでの学修内容

（主に、シラバスの授業計画第1～3回および第8～10回の内容を含む。）

教科書で学んだマクロな状況を念頭に置き、日本で働く外国人労働者の具体的事例や映像を通して日本の移民受け入れ政策の課題について理解を深める。また、地域社会で移民をどのように受け入れるべきか、資料をもとに考察する。これらをアクティブラーニングの手法を用いて実施する。

教科書

永吉希久子（2020）『移民と日本社会—データで読み解く実態と将来像』中公新書

参考文献

- ・「お隣は外国人」編集委員会編（2022）『お隣は外国人 北海道で働く、暮らす』北海道新聞社。
- ・カリド・コーザー、是川タ（監訳）（2021）『移民をどう考えるか：グローバルに学ぶ入門書』勁草書房。
- ・高谷幸編『移民政策とは何か：日本の現実から考える』人文書院。
- ・鳥井一平（2019）『国家と移民—外国人労働者と日本の未来』集英社新書。
- ・望月優大（2019）『ふたつの日本—「移民国家」の建前と現実』講談社現代新書。

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。